

さいたま市立館岩少年自然の家開所四十周年記念式典
式 辞

(日 時) 令和三年十一月三日 (水)

午後十三時三十分 開会

(会 場) さいたま市立館岩少年自然の家 体育館

御列席の皆様こんにちは、さいたま市教育長の細田真由美でございます。

この度、さいたま市立館岩少年自然の家が、開所四十周年を迎えることができました。本来ならば、八月にこの記念式典の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、やむを得ず、一度延期とさせていただきます。それにもかかわらず、本日、多くの方のご臨席を賜り、館岩少年自然の家開所四十周年記念式典をこのように開催できますことを、さいたま市教育委員会といたしまして、心から御礼申し上げます。

さて、館岩少年自然の家には、昭和五十六年十月の開所以来、旧大宮市、さいたま市をあわせて、延べ約百七十万人の子どもたちが、この南会津町を訪れてまいりました。そこでは、登山やキャンプファイヤー、星空観察、イワナさばき、冬季のスキー活動など南会津町にある豊かな自然を最大限に生かした体験活動が行われ、多くの感動や達成感を子どもたちに与えることができました。また、宿泊体験により仲間と協力し役割を果たすとともに、友情や絆を深め、子どもたちが逞しく、心豊かに成長したものと自負しております。

Society5.0時代の到来を目前に控え、学校教育の現場においても、ICTを積極的に取り入れる等、子どもたちを取り巻く環境は著しく変わりました。さいたま市においても、緊急事態宣言下においては、学校における従来の対面授業と、オンライン授業とを組み合わせた「ハイブリッド授業」を行う等、さいたま市のすべての子どもたちに教育機会を確保し、かつ教育効果の高い施策を行ってまいりました。このように社会の変化が著しく、予測困難な時代だからこそ、これからの子どもたちには五感を生かした体験活動やコミュニケーションの場の重要性はこれからますます増えていくことと考えられます。特に、館岩少年自然の家で行われてきました、自然の偉大さや命の大切さを学ぶことができる自然の教室は、子どもたちの「生きる力」を培う貴重な場として、今後もさいたま市の学校教育において重要な

役割を果たしていくものと確信しております。さらに、新たな試みといたしまして、館岩少年自然の家での教育活動を通して、子どもたちの自主性や連帯感等といった「非認知能力」の育成に着目し、自然の教室に参加した児童へのアンケートを行っております。その結果をもとに調査・研究を進め、より効果的な自然体験活動や集団宿泊活動の教育的効果をさらに高める取り組みを充実してまいります。

今後も、本日御参会の皆さまはもとより、館岩少年自然の家を愛し、思いを強く抱いて下さっていらっしゃるすべての方々におかれましては、館岩少年自然の家の発展のために一層の御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、南会津町長 大宅宗吉(おおや そうきち)様、南会津町教育長 星英雄(ほし ひでお)様をはじめといたしまして、これまで館岩少年自然の家の運営に携わっていただきました全ての方々に、温かな御支援、御協力を賜り、改めまして感謝申し上げます。「ありがとう四十年 おめでとう四十周年 これからもさらにひろがれ絆と未来」のスローガンのとおり、南会津町とさいたま市、館岩少年自然の家に携わる皆さま方、さいたま市の子どもたちの絆と未来が一層輝いたものになりますよう、強く願います。

また、今年はさいたま市誕生二十周年、南会津町合併十五周年の記念すべき年となります。両市・町の益々の発展と、御臨席の皆さまの御活躍を心からお祈りし、あいさつとさせていただきます。

令和三年十一月三日

さいたま市教育委員会

教育長 細田 真由美